

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0270101280		
法人名	社会福祉法人平元会		
事業所名	グループホーム金沢なごみ荘		
所在地 (電話番号)	〒030-0855 青森県青森市北金沢2丁目13-11 (電話) 017-775-5525		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月16日	評価確定日	平成22年1月9日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 6.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 ~ 30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(10月 23日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	82 歳	最低	75 歳
		最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人柏葉会
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅密集地の中にあり、ホームは民家を改築したつくりとなっており、近くには商店街があるため、散歩がてら買い物に行くことのできる環境である。又、近隣住民ともなじみの関係となっており、行事等への協力も得やすい。近くには保育園や幼稚園があり、交流も図られている。毎日の生活では、利用者のペースを尊重しており、自然な笑顔と会話があり、とても穏やかに一日を過ごされている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では利用者のこずかい帳の管理について課題となったが、金銭の出入りがあるたびに、記入した職員がサインすることとし、金銭管理について改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を理解する機会を設けており、自己評価は全職員で実施している。又、評価の結果は運営推進会議や職員会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度開催し、町内会長、民生委員、利用者家族、地域包括支援センター等の参加があり、行事やホームの運営について意見を求めている。意見があった場合は真摯に受け止め、改善に努めている。市職員は多忙で参加できない場合が多いため、その都度議事録を送付している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族には、毎月請求書と一緒に生活状況の報告書や広報を同封する他、面会時や敬老会・ピクニック等の行事には家族の参加もあり、その都度近況報告をしている。苦情ボックスを玄関と2階に設置しているが、普段より状況の変化に関わらず、連絡をとっているため投書はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の一員として、地元の協力を得ながら町内の催事へ参加している。ホームの行事では、ボランティアの積極的な参加があり、交流が図られている。又、防災訓練時の協力も得られており、気軽に声を掛け合うなど、触れ合う機会も多い。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に溶け込み、共に支えあえる関係」という、グループホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な雰囲気を大切にし、管理者、職員共にその思いを共有し、理念を生かした取り組みが行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の回覧版やホームの広報の受け渡し、町内の催事、ホームの行事等の協力も得られている。散歩がてら買い物に行き、気軽に声を掛け合うなど地域住民と触れ合う機会も多い。地域にグループホームが根付いており、良好な関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員会議や運営推進会議にて報告し、全職員で話し合い、改善に向け取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、行事やホームの運営について理解を求め、課題があれば話し合い、解決に至っている。市職員は参加できない事が多く、その都度議事録の送付を行っている。		
6	7	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取り合う機会は少ないが、地域包括支援センターの職員や町内会長等へ運営についての相談、現場の実情を伝え、協議し、課題は解決できている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、必要としている利用者はいないが、研修にて理解を深めている。又、研修後は報告会を開き、全職員へ伝えている。		
8	9	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加と伝達研修の実施により、理解を深め防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、運営を熟知している管理者が必ず立ち会うこととし、十分に理解してもらうよう努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会の際は日常生活の報告を行い、遠方の家族へは、毎月の請求書と一緒に近況報告をし、必要に応じて電話での連絡もしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には、気軽に意見を出し、話し合えるような雰囲気作りに努めている。苦情ボックスを設けているが、投函例はない。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の際は十分な引き継ぎ期間を設けている。法人内における異動の場合は、異動後も交流を絶やさぬよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は、自由に研修を選ぶ事ができ、管理者は一人の職員だけに研修が偏らないよう調整している。研修会参加者は全職員に対して、報告会を行っている。また、月1回はホーム内での研修も実施している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東青地区のグループホーム協議会に加盟している。協議会では、事例発表を行うなど積極的な交流が図られている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前にホームを見学していただき、安心感を持っていただけるよう馴染める環境作りや、家族やケアマネからの情報も基に、特に精神面でのケアに心がけている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や畑仕事など、過去の生活習慣や趣味を活かせるような場面作りをし、励ましあい、学びあい、共感しあいながら、支え合う関係ができています。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の様式を使用し、情報収集しており、本人・家族の思いや希望を大切に、生活を支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるよう、日々の生活を重視した介護計画を作成し、職員間で共有している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が見られた時は、カンファレンスを行い、計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じての外出や、急な家族の宿泊、暮らしの継続に必要な病院受診や買い物等柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>可能な限り本人や家族の希望に応じ、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の対応に関しては、入居前に契約書を基に説明し、理解を得られている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>研修へ参加した職員による報告会を行い、職員への意識付けを行い、個人情報保護に努めている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の日課にとらわれず個々の希望にできるだけ沿い、本人のペースで生活できるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者がそれぞれ食事作りや配膳の役割を自分のペースで行っている。献立は職員が作成するが、入居者の希望を聞いたり、買い物の際に変更したり、柔軟に対応している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後に設けられており、入浴時間は利用者の状態や希望を聞き対応している。又、月に一度は、法人の大浴場へ行き、温泉気分を味わっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分らしく生活していけるよう、料理や編み物、農作業、雑巾縫い等、昔の生活習慣や趣味を活かし、張り合いや喜びのある生活への支援がなされている。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出掛けたり、毎月の行事や町内会の催事への参加や、近所のスーパーへの買出しなど、日々希望に応じて出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで拘束が必要な入居者はなく、また研修会に参加し身体拘束をしないケアに関する理解を深めている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上夜間のみ鍵をかけている。利用者の存在が確認できるよう、職員間で声がけをし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施し、災害備蓄も行っている。有事の際に関しては、町内会を含めた緊急連絡網も作成されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は原則法人内の栄養士が作成し、栄養バランスが確保されている。食事摂取量や水分量は、個々に記録されており、一人ひとりの摂取状況が把握され健康面の配慮がされている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し予防対策に努めている他、研修に参加したり、勉強会を開催するなど職員の理解を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中、利用者は自然にリビングに集まり、ゆったり穏やかな一日の中で会話も弾んでいる。窓からは自然の日射しが入り、落ち着いた空間で、自由に過ごされている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物を持ち込んでおり、その人らしい個性が感じられる居室となっている。</p>		

 は、重点項目。